一般教育科目

キリスト教学Ⅰ… 2
キリスト教学Ⅱ… 3
キリスト教音楽… 4
哲学と倫理A… 5
哲学と倫理B… 6
法と社会A(日本国憲法を含む)… 7
法と社会B… 8
政治学A… 9
政治学B… 10
経済学A… 11
経済学B… 12
心と身体A… 13
心と身体B… 14
教育と人間A(教育原理)… 15
教育と人間B(教育史)… 16
歴史と社会A… 17
歴史と社会B… 18
現代の社会と文化A… 19
現代の社会と文化B… 20
情報の科学A… 21
情報の科学B… 22
環境の科学… 23
生命の科学A… 24
生命の科学B… 25
科学と現代A… 26
科学と現代B… 27
科学と現代C… 28
科学と現代D… 29
地域研究A… 30
地域研究B… 31
教養演習A… 32
教養演習B… 33
教養演習C… 34
教養演習D… 35
教養演習E… 36
教養演習F… 37
教養演習G… 38
教養演習N… 39
教養演習O… 40
教養演習Q… 41

科目名	キリスト教学Ⅰ	科目コード	G51000	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	必修	担当者名	楊　尚眞		授業形態	講義	単独	

授業の概要	キリスト教の本質を学び、理解することにおいて、その研究対象は、古代・中世・近世・現代のキリスト教の歴史、聖書・信条・キリスト教思想である。この科目授業において、イエス・キリストの生涯を中心にキリスト教の本質を学ぶ。
到達目標	キリスト教を学び、理解することを通して、本学の建学精神である「畏神愛人」という生き方を多面的に探求する。また、キリスト教信仰と文化を幅広く理解し、人間とは何なのかを一層深く理解する態度を養い、理解する主体である「自分」を内省する視点を獲得することを目標にしている。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	神の言葉である聖書	旧・新約聖書の構成、聖書の信憑性、聖書と啓示	
第2回	神の子イエス・キリスト①	イエスの時代的背景、イエスの福音宣教活動、イエスの説教、	
第3回	神の子イエス・キリスト②	イエスの奇跡の働き、イエスので教育、イエスの三つの役割、	
第4回	神の子イエス・キリスト③	貧しい者への関心、障がい者や病人に対する関心、	
第5回	神の子イエス・キリスト④	イエスの受難、復活、昇天、再臨	
第6回	キリストの神	神の存在、創造主である神、啓示の神、聖霊の神、	
第7回	神の霊である聖霊	聖霊の働き、聖霊と火のバプテスマと聖霊充満	
第8回	三位一体論	三位一体の神	
第9回	キリストの体なる教会	教会の誕生、教会の本質と特徴、教会の機能	
第10回	天国論と地獄論	旧・新約聖書と死後の世界、死後の世界である天国と地獄	
第11回	天使論と悪魔論	聖書と天使の存在と働き、聖書と悪魔の存在と働き	
第12回	キリスト教人間論	人間とは何か、人間と神との関係、人間の自己喪失と回復、原罪	
第13回	キリスト教信仰	信仰と救い、信仰生活、信仰の構成要素、知性、感情、意志、	
第14回	キリスト教礼拝	礼拝という言葉の意味、礼拝の本質、聖礼典	
第15回	まとめ	授業の総括	

評価方法及び評価基準	１．　期末試験　（25%）　２．講義への参加態度（25%）３．礼拝出席度（25%）４．礼拝感想文（25%）キリスト教についての基本的理解を示す試験問題を出し、キリスト教に関する一般知識を評価する。講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。
教材教科書参考書	１．キリスト教概説　（楊尚眞著）２．聖書　３．讃美歌21
留意点	１．礼拝出席　２．私語禁止、３．遅刻禁止　４．質問奨励

科目名	キリスト教学Ⅱ	科目コード	G51001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	必修	担当者名	楊　尚眞		授業形態	講義	単独	

授業の概要	キリスト教を学び理解することは単に知的認識にとどまらず、その人の考え方、生き方や態度に影響を及ぼす。聖書を通して神を知り神の真理を知ることは、人間側に全人格的な経験と関係を呼び起こし、神の意思に向けて決断を迫る生きた返答を生み出す。日常の人間関係の問題に目を向け、それらの諸問題に対してキリスト教的な思考と解答を生み出すことによって、創造主である神の前にて責任のある倫理的な生を生きることができる。 本科目授業では、聖書の教えに基づいて人間の実存的で普遍的な問題を捉え、キリスト教的な解答を追及すること試みる。
到達目標	神は、人間を自由な存在として創造し、人間は自由意思をもって生きる存在であるが、人間が神を知り、神を畏れ、歴史の中で働く生きた神との関係に入り、生活のあらゆる領域において倫理的な決断をすることを求める。本学の建学精神である「畏神愛人」の「畏神」は神に対しての関係的・経験的な知り方を意味する。「神を畏れることは、知恵の初め」（箴言１：７）とあるように、この世のすべての問題解決への真の知恵である聖書的価値観を学ぶこと、さらに、学習者の思考形成、人間形成に寄与することを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	キリスト教の人間関係論	関係優先教訓、関係の法則と技術、関係法則の伝達方法	
第2回	キリスト教の自画像論	自己の回復、自画像と他者との関係、肯定的自画像形成	
第3回	キリスト教の人間理解論	人間の実存の理解、自分と他者の相違点の理解	
第4回	キリスト教の責任論	人間関係崩壊の原因、責任の法則と成熟なる関係	
第5回	キリスト教の憤慨管理論	憤慨の原因、憤慨の理解、憤慨の管理	
第6回	キリスト教の容赦論	心の傷と治癒、神の愛と治癒、赦しと人間関係回復	
第7回	キリスト教の友情論	友情と隣人愛、友情と賞賛、友情と自己犠牲、友情と苦難の克服	
第8回	キリスト教の対話論	対話の重要性、成熟な対話の学び、対話の法則	
第9回	キリスト教の傾聴論	傾聴の重要性、傾聴の方法	
第10回	キリスト教の親切論	イエスの親切心、親切心と隣人愛、親切心と成長	
第11回	キリスト教の激励論	激励と自己の超越、激励の意味、激励の原理	
第12回	キリスト教の葛藤克服論	葛藤問題の肯定的な面と否定的な面、葛藤問題克服の聖書的方法、	
第13回	キリスト教の賞賛論	賞賛の意味と目的、賞賛の技術、賞賛と人間関係	
第14回	キリスト教の関係回復論	人間関係回復の方法	
第15回	まとめ	授業の総括	

評価方法及び評価基準	１．　期末試験　（25%）２．講義への参加態度（25%）３．礼拝出席度（25%）４．礼拝感想文（25%）期末試験は講義で扱った問題に関して出され論述方式で答える。講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。
教材教科書参考書	１．聖書　２．讃美歌21
留意点	１．礼拝出席　２．私語禁止、３．遅刻禁止　４．質問奨励

科目名	キリスト教音楽	科目コード	G51002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択	担当者名	竹佐古　真希		授業形態	講義	単独	

授業の概要	「礼拝堂で学ぶオルガン音楽の歴史」実践編。ピアノよりも長く古い歴史を持つパイプオルガン。その歴史をたどれば、紀元前の水力オルガンにまで及ぶ。映像や音源の紹介と、実際に礼拝堂でオルガンの実演を織り交ぜながら体感しつつ学んでいく。広く鍵盤音楽史とキリスト教音楽の歴史にも触れる。
到達目標	今期はキリスト教音楽の歴史を総合的に学びつつ、各自が楽器に触れて演奏することを到達目標とする。最終講義日までに、賛美歌または任意の1曲（ジャンルは問わない）を演奏できるように準備すること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	聖なる空間とオルガン	教会建築の歴史、本格的教会建築の始まり、オルガン実技	
第2回	聖なる空間とオルガン２）	教会建築の歴史、ゴシック、ノートルダム、オルガン実技	
第3回	聖なる空間とオルガン３）	オルガンの歴史、古代～中世、オルガン実技	
第4回	聖なる空間とオルガン４）	オルガンの歴史、15－18世紀、オルガン実技	
第5回	キリスト教とその音楽の歴史	古代の音楽、聖書と音楽、オルガン実技	
第6回	キリスト教とその音楽の歴史２）	宗教改革時代の音楽、ルターの讃美歌、オルガン実技	
第7回	キリスト教とその音楽の歴史３）	教会音楽のバロック期、オルガン実技	
第8回	キリスト教とその音楽の歴史４）	バッハの音楽、オルガン実技	
第9回	キリスト教とその音楽の歴史５）	バッハ以降の教会音楽、オルガン実技	
第10回	キリスト教会の歌	旧約聖書の歌、オルガン実技	
第11回	キリスト教会の歌２）	新約聖書の歌、オルガン実技	
第12回	キリスト教会の歌３）	講義内にて演奏会を鑑賞予定（オルガンと声楽）	
第13回	クリスマス礼拝	クリスマス礼拝に出席、（レポート提出）	12月第2週の木曜日
第14回	クリスマス音楽の夕べ	クリスマス音楽の夕べに出席、（レポート提出）	12月第2週の木曜日
第15回	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り、（オルガン演奏実技）	

評価方法及び評価基準	平常点評価（40%）、クリスマス礼拝とクリスマス音楽会に出席をしてレポートを提出する（2回・各15%）。　最終講義内でオルガン演奏実技、（1回・30%）。
教材 教科書 参考書	讃美歌21、「キリスト教音楽への招待　～聖なる空間に響く音楽」佐々木しのぶ、佐々木悠（教文館）
留意点	楽器や曲の練習時間に関しては、可能な範囲で講義外にも対応するように心がける。詳細は講義時間内に打ち合わせる。必要な楽譜は、教員が準備する。

科目名	哲学と倫理Ａ	科目コード	G52000	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田　学		授業形態	講義	単独	

授業の概要	現代倫理学で議論される「生命」、「幸福」、「正義」、「科学技術」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章化する力を養うための練習も行う。
到達目標	①広範な倫理的問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③やや難解な文章を読む力をつけること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	授業の目的、進め方	
第2回	「嘘も方便」は正しいか？	カントの倫理学説　（義務論）について	
第3回	サバイバル・ロッタリー	生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？	
第4回	「最大多数の最大幸福」	個人と社会のあり方を考える	
第5回	功利主義の基礎	功利主義とは？功利主義者の原典を読んでみる	
第6回	幸福の計算	幸福とは何か、幸福へ至る道とは？	
第7回	人格概念	人格概念を検討する	
第8回	事実判断と価値判断	「である」と「べきである」の関係性について	
第9回	カントの定言命法	カントの倫理学説再説	
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？	道徳の原則とは何か？	
第11回	囚人のジレンマ	囚人にとって一番利益になる行為とは？	
第12回	施しは義務か？	貧者を援助しなければならないことの根拠	
第13回	正義は時代によって変わるか？	格差問題を考える	
第14回	科学は価値中立的か？	科学技術の光と闇	
第15回	まとめ	授業全体のまとめ	

評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。
教材 教科書 参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、760円）
留意点	自分の意見を文章化し発表する作業（atelier）を授業時間内に設ける。教科書毎回持参のこと。

科目名	哲学と倫理Ｂ	科目コード	G52001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田　学		授業形態	講義	単独	

授業の概要	18世紀ドイツの哲学者カントが著した『永遠平和のために』を精読する。どうすれば戦争をなくすことができるかを論じた古典的平和論であり、200年以上前に書かれたものだが今日でも傾聴に値する。なお、演習形式で議論中心の授業を目指す。
到達目標	難解な書物を自分なりに解釈し、それを口頭で発表できるようになること。また、文章としても表現できるようになること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス	授業の目的、進め方	
第2回	カント『永遠平和のために』	講読、問題提起	
第3回	カント『永遠平和のために』②	講読、問題提起	
第4回	カント『永遠平和のために』③	講読、問題提起	
第5回	カント『永遠平和のために』④	講読、問題提起	
第6回	カント『永遠平和のために』⑤	講読、問題提起	
第7回	カント『永遠平和のために』⑥	講読、問題提起	
第8回	カント『永遠平和のために』⑦	講読、問題提起	
第9回	カント『永遠平和のために』⑧	講読、問題提起	
第10回	カント『永遠平和のために』⑨	講読、問題提起	
第11回	カント『永遠平和のために』⑩	講読、問題提起	
第12回	カント『永遠平和のために』⑪	講読、問題提起	
第13回	カント『永遠平和のために』⑫	講読、問題提起	
第14回	カント『永遠平和のために』⑬	講読、問題提起	
第15回	まとめ	授業全体のまとめ	

評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。
教材教科書参考書	カント『永遠平和のために　改版』（宇都宮芳明訳　岩波文庫　605円）
留意点	初回から教科書持参のこと。

科目名	法と社会Ａ （日本国憲法を含む）	科目 コード	G52002	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野　拓哉		授業 形態	講義	単独	
	教職資格科目	必修							

授業の概要	「日本国憲法Ａ」および「日本国憲法Ｂ」を通じて、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。　「日本国憲法Ａ」では、まず、民主主義の統治の基本原理を学び、その後、統治の機構としての「国民」やその代表者で構成される「国会」について学ぶ。
到達目標	日本国憲法が近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとすることを目指す。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	統治の基本原理①	民主主義	
第2回	統治の基本原理②	「主権」概念の形成と展開	
第3回	統治の基本原理③	国民主権	
第4回	統治の機構Ⅰ	国民①～「国民」の要件	
第5回	統治の機構Ⅰ	国民②～「国民」の位置	
第6回	統治の機構Ⅰ	国民③～「国民」の権能	
第7回	統治の機構Ⅱ	国会①～国権の最高機関	
第8回	統治の機構Ⅱ	国会②～唯一の立法機関	
第9回	統治の機構Ⅱ	国会③～国会の構成	
第10回	統治の機構Ⅱ	国会④～国会の権能	
第11回	統治の機構Ⅱ	国会⑤～議院の権能	
第12回	統治の機構Ⅱ	国会⑥～議員の地位と特権	
第13回	統治の機構Ⅱ	国会⑦～国会と内閣の関係	
第14回	統治の機構Ⅱ	国会⑧～国会と裁判所の関係	
第15回	総括	まとめと振り返り	

評価方法及び評価基準	試験（前期試験）のみ
教材教科書参考書	特に指定しない
留意点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと。

科目名	法と社会Ｂ	科目コード	G52003	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野　拓哉		授業形態	講義	単独	

授業の概要	「日本国憲法Ａ」および「日本国憲法Ｂ」を通じて、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。　「日本国憲法Ｂ」では、内閣、裁判所、地方自治の順で、日本国憲法が規定する統治機構を学んだ後、統治に関する諸問題として、憲法保障などもとりあげる。
到達目標	「日本国憲法Ａ」と同様に、日本国憲法が近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとすることを目指す。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	統治の機構Ⅲ	内閣①～行政権とその帰属	
第2回	統治の機構Ⅲ	内閣②～内閣の組織	
第3回	統治の機構Ⅲ	内閣③～内閣の権能	
第4回	統治の機構Ⅲ	内閣④～大臣の権能	
第5回	統治の機構Ⅳ	裁判所①～司法権とその帰属	
第6回	統治の機構Ⅳ	裁判所②～司法権の範囲と限界	
第7回	統治の機構Ⅳ	裁判所③～裁判所の種類と構成	
第8回	統治の機構Ⅳ	裁判所④～裁判所の権能	
第9回	統治の機構Ⅳ	裁判所⑤～違憲審査制度	
第10回	統治の機構Ⅴ	地方自治①～地方自治制度	
第11回	統治の機構Ⅴ	地方自治②～条例制定権の範囲と限界	
第12回	統治に関する諸問題①	憲法保障	
第13回	統治に関する諸問題②	緊急事態	
第14回	統治に関する諸問題③	地方分権	
第15回	総括	まとめと振り返り	

評価方法及び評価基準	試験（後期試験）のみ
教材教科書参考書	特に指定しない
留意点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと

科目名	政治学Ａ	科目コード	G52014	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義		単独

授業の概要	［キーワード：政治、権力、権威、宗教、カリスマ、民主主義、集団主義、個人主義、官僚制］ 今日、社会全体がどちらかといえば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこで、この講義のねらいは、政治と私たちの社会がどのような関係にあるのかを受講者に理解・意識してもらうことにあります。それゆえ、講義では制度を多く扱うよりも、それらに密接に関わる原理や傾向、あるいは考え方に力点をおきます。
到達目標	受講者には以下の３点の「答え」を相応に理解してもらえればと思う。 ・なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのか。 ・なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのか。 ・江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのか。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について	さらに、出欠や感想文とレポートの違い等の説明も行う。	
第2回	政治とは何か	学生に今までの理解で「政治」について知っていること、思っていること、感じていること等を用紙に書いてもらう。これを回収して西東がコメントしていく。	
第3回	権力とは何か・権威とは何か	M.ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力と権威について解説する。	
第4回	政治的意識と政治的無関心	政治的意識と政治的無関心を類型化して解説する。	
第5回	マス・メディアと政治	民主主義体制における政治家とマス・メディアには基本的に価値観の対立がある。	
第6回	民主主義	民主主義体制のメリットとデメリット。民主主義体制以外の独裁体制のデメリット。	
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化と	集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校の集団重視教育のように、制度に取り入れられている集団主義文化も存在する。私たちのこうした慣習は集団や組織にとってメリット・デメリットの双方が現れる。KYも良かれ悪しかれ集団主義文化である。具体例をあげながら、日米の文化について分析していく。	
第8回	18歳選挙権と参政権	18歳選挙権はすべての政党が賛成して決定された。そもそも日本国憲法第16条には請願権があり、議会や行政に対して一定の手続きはあるものの、国籍や年齢に関わらず意見を述べることができる。この権利と選挙権・被選挙権の違いについて考察する。	
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（１）	国際政治における権力・条約・国際連合の関係	
第10回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（１）	NHKのドキュメタリー番組の鑑賞	
第11回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（２）	パレスチナ・イスラエル問題の歴史を見ていく。ユダヤ社会とアラブ社会の歴史を概説する。	
第12回	官僚制理論（１）	官僚制理論の基礎を考察していく。M.ウェーバーの推定した組織された社会の進行は今も続いている。こうした社会のメリット・デメリットを考えたい。	
第13回	官僚制理論（２）	行政官僚制による「天下り」問題と集団主義文化	
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化	戦後我が国社会は垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化に変わりつつある。だが、この水平的集団主義文化のデメリットはリーダーを生み出しにくい文化とも言われる。個人・集団・組織の自律・自立の視点を加えてこの問題を考察する。	
第15回	制度と慣習	M.ウェーバーは、制度の理論に文化を絡ませて研究業績を残した。そうした彼の研究の一部をヒントにした分析を解説する。	

評価方法及び評価基準	レポート（50%）と試験（50%）。文章の構成と論理性を中心に評価する。
教材教科書参考書	教科書：橋爪大三郎著『政治の教室』講談社学術文庫、840円。レポート課題図書兼教科書：土岐寛編著『行政と地方自治の現在』北樹出版、2300円。
留意点	講義中や講義後での質問・感想に遠慮は必要ありません。

科目名	政治学Ｂ	科目コード	G52015	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義	単独	

授業の概要	［キーワード：人権］政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断の努力によって」自由及び権利を保持するのである。怠けていては保持されないことがあるかもしれない。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には長い長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されている者である。私たちが努力していく方向を探るために、前期で学んだ基礎的知識を下に、さらに具体的に考察できる知識を学んでいきたい。
到達目標	・完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かを考えていく。 ・受講者には、この「答え」をああでもない、こうでもないと考え続けていくことができればと思う。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	本講義・展開方法・試験等について	さらに、出欠、感想文とレポートの違いについての確認。	
第2回	黒人差別の歴史的展開	米国黒人差別の歴史を植民地時代から19－20世紀までの概説する。	
第3回	公民権運動の動画鑑賞（１）	1950年代から1960年代までの公民権運動を撮影したものを再編集した動画の鑑賞。	
第4回	公民権運動の動画鑑賞（２）	前回の続き	次週までに黒人差別問題について感想文を受講者に書かせる。
第5回	M.ウェーバーの政治家としての資質	M.ウェーバーの述べた政治家の資質は、政治の独特の問題への対応を除けば、あらゆる組織のリーダーにとって不可欠なものである。受講者にとって多少難解な点もあろうが、リーダーはリーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長していく。良き方向に進むのか、悪い方向に進むのか。このことをリーダーと周囲の人間は、常に配慮する必要がある。	
第6回	議院内閣制・大統領制とリーダーシップ	議院内閣制と大統領制の分析とリーダーシップの関係について考察する。	
第7回	圧力団体・公益法人・NPO	圧力団体・公益法人・NPOを概説し、メリット・デメリットを分析する。	
第8回	文民統制・自衛権・集団安全保障	民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、双方の自衛権と国連の集団安全保障概念を理解する。	
第9回	日本の政策過程	日本の政策過程について、1955以来形成されてきたパターンを分析・解説する。	
第10回	NGOとNPOのミッション	（NGOを含む）NPOの企業や行政とは異なる特徴は何か、また、そのミッションとは何か。これらを中心に考察する。	
第11回	NGOとNPOの機能と構造パターン	（NGOを含む）NPOの機能と構造パターンから、そのメリット・デメリットを考察していく。	
第12回	行政学史（１）	現代行政学は米国で生まれた。その発生の原因と新しい学問に影響を与えた学問の基本的知識の理解。	
第13回	行政学史（２）	現代行政学のパラダイムは「政治と行政の分離」である。だが、このパラダイムは批判されるが、行政学はこれにより徐々に発展していく。正統派行政学についての理解を求める。	
第14回	行政学史（３）	バーナードとサイモンが行政学に与えた基本的な学説の理解。	
第15回	社会科学と政策科学（公共政策論）	社会科学と政策科学の違いと共通点に関する理解。	

評価方法及び評価基準	レポート１回（50%）と試験１回（50%）　文章の構成と論理性を中心に評価する。
教材教科書参考書	教科書：橋爪大三郎著『政治の教室』講談社学術文庫、840円。レポート課題図書兼教科書：土岐寛編著『行政と地方自治の現在』北樹出版、2300円。
留意点	

科目名	経済学Ａ	科目コード	G52016	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田　進治		授業形態	講義	単独	

授業の概要	近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に着けます。
到達目標	経済学の基本的課題、基本的概念、基本的主張を理解することを目指します。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	序　論	授業の目的、概要、方法について説明します。	
第2回	重商主義の時代	アダム・スミスの時代と生涯について学びます。	
第3回	市場メカニズム	アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。	
第4回	小さな政府	アダム・スミスの経済政策と夜警国家について学びます。	
第5回	産業革命の時代	リカードの時代と生涯について学びます。	
第6回	国際貿易の原理	リカードの国際貿易論と比較優位の概念について学びます。	
第7回	階級闘争の時代	マルクスの時代と生涯について学びます。	
第8回	資本主義の構造	マルクスの資本主義と剰余価値の把握について学びます。	
第9回	資本主義の歴史	マルクスの資本主義の歴史理論について学びます。	
第10回	ヴィクトリア時代	マーシャルの時代と生涯について学びます。	
第11回	市場経済の理論	マーシャルの需給均衡と市場経済の理論について学びます。	
第12回	大恐慌の時代	ケインズの時代と生涯について学びます。	
第13回	失業の原因	ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。	
第14回	福祉国家の形成	ケインズの経済政策と福祉国家の形成について学びます。	
第15回	まとめ	授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。	

評価方法及び評価基準	1）平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2）期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。
教材教科書参考書	（参考書）　八木紀一郎『経済思想』（第2版）日本経済新聞出版社、2011年
留意点	

科目名	経済学Ｂ	科目コード	G52017	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田　進治		授業形態	講義	単独	
授業の概要	現代の資本主義経済の構造とマクロ経済政策の効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。								
到達目標	現代経済の基本的メカニズムと、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	序　論	授業の目的、概要、方法について説明します。	
第2回	日本経済の動き	戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。	
第3回	マクロ経済分析	現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。	
第4回	失業の原因	失業の定義、概念、原因について学びます。	
第5回	総生産の決定	総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。	
第6回	財政政策の効果	政府の役割と財政政策の効果について学びます。	
第7回	財政赤字と失業	財政政策の運用と限界について学びます。	
第8回	貿易の効果	貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。	
第9回	為替レート	為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。	
第10回	投資の決定	金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。	
第11回	金融市場の役割	利子率の決定と資産選択の原理について学びます。	
第12回	金融政策の効果	中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。	
第13回	物価の変動	物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。	
第14回	経済成長の戦略	経済成長の戦略の今後の日本経済の課題について学びます。	
第15回	まとめ	授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。	

評価方法及び評価基準	1）平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2）期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。
教材教科書参考書	（参考書）　塚崎公義『よくわかる日本経済入門』（増補改訂版）朝日新聞出版、2015年
留意点	

科目名	心と身体Ａ	科目コード	G52006	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木　正晴		授業形態	講義	単独	

授業の概要	人間行動の基礎課程である心の活動を探索する.心理学研究史を概観し，その意義，方法論を探り，看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ，脳と心の関係，感覚・知覚，欲求・行動の成り立ちを探る.学習・記憶，言語・思考，情動・動機づけ，発達・学習，パーソナリティ，対人関係・社会行動など，実験論文を通して，人間行動を総合的に考える
到達目標	1.基本概念と語句を理解すること 2.実験の方法と結果を予測する力をつけること 3.心の活動についてじぶんの答えを見つけること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	心理学の歴史と方法	心理学誕生の経緯、その方法の由来を知り、学問の成り立ちを考える	
第2回	心の活動の定義	心の活動を5種類に分け、それぞれ具体例を挙げ、心の活動を定義する	
第3回	感覚・知覚の世界：逆さに見える世界	逆さに見えるめがねをかけ、この実験の由来と意味を考える	
第4回	感覚・知覚の世界：初めて見る世界	一定の生活歴を経てから初めてこの世界を見た人たちの実例を見る	
第5回	記憶のメカニズム：記憶術名人の苦悩	記憶機能に関わる実験例を見、「記憶の名人」の苦悩について考える	
第6回	言語の成立と機能：言語機能障害	ことばをうまく話せないこどもたちに対する形成実験例を挙げる	
第7回	学習意欲の崩壊：ひきこもり	勇気，意欲，希望：学習意欲が失われる実験例について考える	
第8回	学習意欲の芽生え：挑戦する人たち	勇気，意欲，希望：学習意欲が成り立つ条件について考える	
第9回	情動、感性、動機：気持ちを変える	気持ちが変化したり、芽生えたり、それを示す実験例を挙げる	
第10回	発達、学習：未知の世界に喜ぶこどもたち	発達，学習，操作：働きかけると機能が変わる.実験の具体例	
第11回	性格・人格・行動：個性に悩む人たち	性格・人格・行動：性格検査，適性検査を実施し，自己を考える	
第12回	対人関係と社会：お金持ちの最適戦略	お金持ちになる戦略を巡る実験を見、人との関わりについて考える	
第13回	脳と心の関係性：大脳には心理機能の地図	大脳の心理機能地図、リハビリから脳と心の関係性について考える	
第14回	脳と心の関係性：脳損傷と機能形成	脳損傷者の機能形成臨床例から脳と心の関係性に着いて考える	
第15回	総括	心の活動について受講生ひとり一人が絵を描く	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，レポート50%．毎回の授業で小レポートを課する. 小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする．翌週提出する(自学)大きなレポートは，3回. テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めてレポートを書くこと

科目名	心と身体Ｂ	科目コード	G52007	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木　正晴		授業形態	講義	単独	

授業の概要	心の活動という現象を脳という物質が支えている．近年，工学技術の進展により脳内機構を探索することが可能になり，心と脳の関連性を捉えようとする研究が飛躍的に増大している．しかし両者の関連性が十分に解明されたとはいえない．本講では，見る活動と近年の研究成果を見ながら，見る活動と脳の関連性について残された課題を探る
到達目標	1.実験の方法や結果を予測する力をつけること 2.見る活動と脳の活動の関係性を捉えること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	脳の構造と働き：医学／生理学領域	医学的観点から脳の構造と働きを学ぶ	
第2回	脳損傷：大脳認知地図の状況	脳損傷者の大脳認知地図の臨床例から、脳と心の関係性を探る	
第3回	脳機能と動物実験	人に対してはできない脳を操作する実験が動物で行われている	
第4回	脳に損傷を受けたひとたち	一定の生活歴を経てから脳に損傷を受けたひとたちの状況を紹介する	
第5回	見る活動：静止網膜像の実験	見る活動を支える生理学的基礎：静止網膜像の実験	
第6回	見る活動：視覚と触覚の実験	見る活動と触る活動に乖離が生じると：視覚と触覚の実験	
第7回	脳と心の関係：両者間の優位性	これまでを総括し、脳と心の関係性／優位性について考える	
第8回	脳に損傷を受けた人たちの機能形成	脳が壊れても機能は形成されるRewinの臨床報告．Sadatoの実験報告	
第9回	脳と心の関係：両者間の優位性	改めて、脳と心の関係性／優位性について考える	
第10回	こどもにおける見る活動の障害と形成	見る活動：方向弁別と形の知覚実験	
第11回	脳損傷者における見る活動の障害と形成	脳損傷実験：　Yagiの実験報告	
第12回	見る活動の障害と形成	これまでの事例から見る活動の障害と形成について総合的に考える	
第13回	行動障害状況の打開	行動的障害状況に応じた機能形成の原理を探る	
第14回	脳と心の関係性の結論	脳と心の関係性／優位性について総合的に考える	
第15回	総括	心の活動について受講生ひとり一人が絵を描く	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，レポート50%．毎回の授業で小レポートを課する． 小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする．翌週提出する大きなレポートは，3回． テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する
教材教科書参考書	なし．プリント配布
留意点	心を込めてレポートを書くこと

科目名	教育と人間Ａ （教育原理）	科目 コード	G52008	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	原　圭寛		授業 形態	講義		単独
	教職資格科目	必修							

授業の概要	本科目は，これまで教育学において考察の対象となってきた教育に関する原理的な問いについて，過去に教育及び教育学研究に携わった人々がどのように考えてきたのかについての講義を行う。また，履修者間でのディスカッションを通して，履修者自身にこれらの問題について考察してもらう。
到達目標	1）教育及び教育学に関する基礎的知識を身につける。 2）教育に関する問題について，多様な立場からの意見を踏まえたうえで自身の意見を持つことができ，それについて専門用語を用いつつ理論的に述べることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーション ・第6回までのディスカッションのグループ決め	初回欠席者は履修を認めないので注意すること
第2回	なぜみんな学校へ行くのか？	教育と学校教育／近代公教育制度の成立とその背景にある理念（思想）／近代教育思想における他律と自律／道具としての理性，効率化としての理性に対する批判［教科書第1章］	
第3回	学校は誰のためのものなのか？	三つの答え／「国民の教育権」対「国家の教育権」／新しい「公共性」のほうへ［教科書第2章］	
第4回	学校で何を学ぶのか／ 学んでしまうのか？	教室内の生活とかくれたカリキュラム／学校は無色透明でも中立でもない／権力への自発的な服従／学校化／教育に関する二つのパラドックス［教科書第3章］	
第5回	「子ども」とは何か？	子どもをどのような存在としてとらえるか／「小さな大人」としての子ども／子どもの発見／恵まれない子どもへのまなざしと幼稚園の誕生／「遊び」論の展開／子ども観と教育［教科書第4章］	
第6回	成熟するとはどのようなことか？	生物学的過程としての成熟／獲得的過程としての発達／発達・教育・学習／発達を乗り越える視座としての生成／成熟するとはどのようなことか？［教科書第5章］	
第7回	前半のまとめ・中間試験	第6回までの到達度の確認	試験欠席者は評価の対象とならないので注意すること
第8回	試験解説・小括	・第6回までの内容の復習 ・第13回までのディスカッションのグループ決め	
第9回	「役に立たないこと」を学ぶ意味とは何か？	「教養」とは何か？／前近代におけるリベラル・アーツ／近代以降のリベラル・アーツ／「知識」そのものか，「知識」を得る過程か？［教科書第6章］	
第10回	子どもにどうやって教えるのか？	教育を成立させる「手段・媒介」／「表象」に基づく教育／「経験」に基づく教育／現代教育学の動向と世界の実演／新教育運動の思想家・実践家たち［教科書第7章］	
第11回	学校教育は子どもの生とどのようにかかわるか？(1)	子どもの問いから考える／近代学校教育の成立と子どもの生活の変化／戦後教育改革と社会科［教科書第8章］	
第12回	学校教育は子どもの生とどのようにかかわるか？(2)	戦後の教育実践に学ぶ／現代の教育を考える／子どもの生に向き合うことでオルタナティヴを構想する［教科書第8章］	
第13回	子どもは何を学ぶのか？	学習指導要領と戦後／学力と産業化社会／生きる力とポスト産業化社会／そして子どもは何を学ぶのか？／ケアと教育の問い直し［教科書第9章］	
第14回	後半のまとめ・中間試験	第13回までの到達度の確認	試験欠席者は評価の対象とならないので注意すること
第15回	試験解説・総括	第13回までの内容の復習	

評価方法及び評価基準	1）原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日に出席することが求められる。これに反した場合，評価は0点とする。 2）評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・中間試験：50% ・期末試験：50% ・授業内の発言及びコメントシート：適宜加点
教材 教科書 参考書	教科書：古屋恵太編著．(2017)．『教育の哲学・歴史』．学文社．ISBN: 978-4-7620-2612-6 参考書：眞壁宏幹編．(2016)．『西洋教育思想史』．慶應義塾大学出版会．ISBN: 978-4-7664-2327-3
留意点	・上記に示した教科書の範囲を予習したうえで授業に出席すること。 ・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨み，自身の考えを積極的に発言すること。ディスカッションに積極的に参加していない場合，履修を辞退してもらう場合がある。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/授業関連/

科目名	教育と人間Ｂ （教育史）	科目 コード	G52009	単位数 時　間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
区分	一般教育科目 選択必修 教職資格科目 選択	担当者名	原　圭寛			授業 形態	講義		単独

授業の概要	本科目は，特に日本における教育の歴史についての講義を行う。また，単に講義を聴くのみでなく，履修者間でのディスカッションを通して，講義で学んだ歴史的事象の意味について考察してもらう。
到達目標	1) 日本の教育史に関する基礎的知識を身につける 2) 教育に関する問題について，歴史的知見や多様な立場からの意見を踏まえたうえで自身の意見を持つことができ，またそれを専門用語を用いつつ理論的に述べることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーション	初回欠席者は履修を認めないので注意すること
第2回	古代・中世の学び/ 近世における教育の組織化	・「組織としての教育」の胎動と進展［教科書第1章］ ・「文字社会」の成立と教育の組織化［教科書第2章］	
第3回	江戸時代の「学び」/ 「近代教育」の発足(1)	・「組織としての教育」段階での学び［教科書第3章］ ・「学制」制定とその教育理念［教科書第4章］	
第4回	「近代教育」の発足(2)	・「教育令」の制定と改正［教科書第5章］ ・復古主義の台頭［教科書第6章］	
第5回	「近代教育」の確立(1)	・森有礼文政期の教育改革［教科書第7章］ ・「教育勅語」の渙発［教科書第8章］	
第6回	「近代教育」の確立(2)	・明治期後半の教育改革［教科書第9章］ ・明治期の教授理論［教科書第10章］	
第7回	前半のまとめ・中間試験	・第6回までの到達度の確認	試験欠席者は評価の対象とならないので注意すること
第8回	試験解説・小括	・第6回までの内容の復習 ・第13回までのディスカッションのグループ決め	
第9回	「近代教育」の見直し(1)/ 「近代教育」の再編(1)	・大正新教育運動［教科書第11章］ ・大正期の教育改革［教科書第12章］	
第10回	「近代教育」の再編(2)	・昭和初期の教育［教科書第13章］ ・戦争と教育［教科書第14章］	
第11回	「近代教育」の見直し(2)/ 「近代教育」の再興(1)	・戦後新教育の動向［教科書第15章］ ・講和・独立後の教育政策動向［教科書第16章］	
第12回	「近代教育」の再興(2)	・高度経済成長と教育［教科書第17章］	
第13回	「近代教育」の混迷	・国家統制と市場原理［教科書第18章］	
第14回	後半のまとめ・期末試験	・第13回までの到達度の確認	試験欠席者は評価の対象とならないので注意すること
第15回	試験解説・総括	・第13回までの内容の復習	

評価方法及び評価基準	1) 原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日に出席することが求められる。これに反した場合，評価は0点とする。 2) 評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・中間試験：50% ・期末試験：50% ・授業内の発言及びコメントシート：適宜加点
教材 教科書 参考書	教科書：山本正身著．(2017)．『日本教育史』．慶應義塾大学出版会．ISBN: 978-4-7664-2131-6 参考書：眞壁宏幹編．(2016)．『西洋教育思想史』．慶應義塾大学出版会．ISBN: 978-4-7664-2327-3
留意点	・上記に示した教科書の範囲を予習したうえで授業に出席すること。 ・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨み，自身の考えを積極的に発言すること。ディスカッションに積極的に参加していない場合，履修を辞退してもらう場合がある。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/授業関連/

科目名	歴史と社会Ａ	科目コード	G52010	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田　和男		授業形態	講義	単独	

授業の概要	フランスの出生率の高さの原因を探ってきた経緯から、今度は日本の出生率の低さの原因について探っていく。
到達目標	日本の少子化は１９９２年から始まったとされる。その後、高齢化と対になる形で使われるようになった。その当時の国民生活白書には、少子化問題の多くがすでに指摘されていた。少子化対策も記されていた。問題は誰もそれを重要なことと受け止めていなかったことである。９６年では出生率が１．４３まで落ちていた、にもかかわらず放置されていたのである。その原因を徹底して探る。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	日本の少子化。	主因は若年男性の収入低下とパラサイト・シングル現象	
第2回	なぜ少子化が社会問題なのか。	地域格差と家族格差を伴っているので深刻である。	
第3回	家族の理想と現実。	人は家族を持ちたがっているが、持てなくなっている。	
第4回	少子化の原因は。	原因は、魅力格差、経済格差、性のあり方の変化による。	
第5回	戦後日本と少子化。	経済状況と恋愛状況の転換点。	
第6回	収入の見通し。	結婚生活・子育てへの期待水準。	
第7回	高度成長と安定出生率。	平均４人の子ども持つ世代。	
第8回	少子化の始まり。	晩婚化、未婚化、結婚の先送り。	
第9回	パラサイトシングル。	親と同居する未成年者。	
第10回	少子化の社会問題化。	経済状況の大きな変化から生じた。	
第11回	未婚化の進展。	男性の非正規雇用の増加。	
第12回	夫婦の生み控え。	経済的要因、セックスレス、離婚。	
第13回	恋愛と結婚の分離。	恋愛結婚の減少。	
第14回	少子化対策の課題。	労働力、社会保障、経済成長、地域格差の是正、家族格差の是正。	
第15回	希望格差対策。	すべての若者に希望のもてる職を与え安定した収入を得させよ。	

評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつのる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。
教材教科書参考書	『少子社会日本』山田昌弘、岩波新書、２００７年。
留意点	必ず予習をしておくこと。発表を重視するので何回発表してもよい。また発表内容をレポート提出すること。

科目名	歴史と社会Ｂ	科目コード	G52011	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田　和男		授業形態	講義	単独	

授業の概要	人口減少が進み、働き手が減少、日本の財政赤字は拡大、地方はいまや消滅せんとしている。もう手立てはないのではないかという意見がある。 それに対し経済学はNOを言う。成長に必要なのはイノベーションであり、高齢化とはいえ長生きしている人々がたくさんいる。そのパワーを生かせばマイナスをプラスに転化することができる。
到達目標	はじめに、経済学は歴史的に人口問題をどう見てきたか、「人口論」を学ぶ。 次に、人口問題が経済とどのようにリンクするのか学ぶ。そして先進国における出生率の低下、寿命の延びについて学び、人間にとって経済とは何か、定常状態の幸福論について考える。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	世界の人口。	日本、中国、世界の人口について。	
第2回	人口爆発。	西ヨーロッパの人口問題について。	
第3回	経済学者の人口論。	マルサスの人口論と、ケインズの人口論。	
第4回	スウェーデンの人口論。	子育て支援の源流。	
第5回	日本の人口減少。	日本が消える？市町村が消える。	
第6回	明治時代の人口。	都市人口ランキング。	
第7回	経済成長と人口。	イノベーションの役割。	
第8回	高度成長の時代。	成長のメカニズム。	
第9回	長寿という果実。	先進国における出生率の低下。日本の推移。	
第10回	ジニ係数。	長寿のジニ係数。	
第11回	経済とぜいたく。	GDPの計測。	
第12回	エンゲルの法則。	成熟経済にかかる下方圧力。	
第13回	ケインズの未来論。	プロダクト・イノベーション。	
第14回	成長か平等か。	定常状態の幸福論。	
第15回	日本経済の将来。		

評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつのる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。
教材 教科書 参考書	『人口と日本経済』　吉川 洋　著。中公新書2388、2016年
留意点	事前の学習が大切。特に、毎回テーマごとにレポートを用意すること。それをもとにディベートを行う。

科目名	現代の社会と文化Ａ	科目コード	G52012	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡　真之		授業形態	講義	単独	

授業の概要	20世紀以降の先進国の文化や生活様式に多大な影響を与え続けている、メディアの変化および消費社会化について学ぶ。 メディアに関しては、その概念から始まり、メディア技術の発展とそれがコミュニケーションにもたらした変容、マス・コミュニケーションが人々にどのような影響を与えているかなどといったことを取り上げる。消費社会化については、消費社会のもたらす問題と歴史、経済成長と幸福感の関係、消費と公共性などといった問題を取り上げる。
到達目標	・メディアの概念、歴史を知ることにより、私たちのコミュニケーションのあり方を相対化してみられるようになる ・消費社会関する問題を理解することによって、私たちが日常的に行っている消費行動の社会的な意味を理解できるようになる ・情報、消費に媒介されて成立している現代文化のありようを長い時間軸の中で理解できるようになる

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	先進国における社会変動	情報社会化、消費社会化、リスク社会化	
第2回	メディアとは何か	メディアの概念	
第3回	メディアの歴史（１）	メディアの発展とコミュニケーションの変化	
第4回	メディアの歴史（２）	電子メディアの特徴	
第5回	メディアとリアリティ	メディアと現実の関係	
第6回	マス・メディアの効果（１）	弾丸理論、限定効果説、強力効果説	
第7回	マス・メディアの効果（１）	マス・メディアの送り手と受け手	
第8回	消費社会の歴史と特徴（１）	消費社会の問題	
第9回	消費社会の歴史と特徴（２）	日本の消費社会、欧米の消費社会	
第10回	マクドナルド化する社会？（１）	マクドナルド化、社会の合理化	
第11回	マクドナルド化する社会？（２）	マクドナルド化、社会の合理化	
第12回	経済成長と幸福	途上国の幸福/先進国の幸福	
第13回	消費社会と環境問題	資源問題と自然環境問題、大量生産と大量消費	
第14回	南北問題と消費社会	南北問題における生産者と消費者、フェアトレード	
第15回	脱物質主義化	欲求階層論、脱物質主義化、倫理的消費	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（15%）、試験（85%）。基本概念や用語の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出す。解答の論理性を重視して評価する。
教材教科書参考書	使用しない
留意点	

科目名	現代の社会と文化Ｂ	科目コード	G52013	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡　真之		授業形態	講義	単独	

授業の概要	社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで気づかなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、自我、家族、セクシュアリティ、地域と都市、階級・階層、健康・医療など。
到達目標	・さまざまな水準の社会現象を、よりクリアーに理解できるようになる ・さまざまな水準の社会現象を、より深く理解できるようになる ・社会学の知識を用いて、現実の人間関係や社会現象を理解できるようになる

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会学とは何か（１）	社会科学と社会学	
第2回	社会学とは何か（１）	デュルケム『自殺論』の方法	
第3回	自我論（１）	自我とは何か、自己と他者	
第4回	自我論（２）	自己とコミュニケーション	
第5回	家族の社会学（１）	家族の類型と機能	
第6回	家族の社会学（１）	結婚の変化、出生率の推移、家族の変化	
第7回	ジェンダーとセクシュアリティ（１）	ジェンダー概念、仕事と家族をめぐる問題	
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ（２）	セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティ	
第9回	地域と都市の社会学（１）	都市とは何か、シカゴ学派の見方	
第10回	地域と都市の社会学（２）	コミュニティ、郊外化	
第11回	階級・階層の社会学（１）	社会的地位の測定、社会移動	
第12回	階級・階層の社会学（２）	産業化と階層構造の変化	
第13回	健康・医療の社会学（１）	健康の概念/疾病の概念	
第14回	健康・医療の社会学（２）	医療化、医原病、死と社会	
第15回	健康・医療の社会学（３）	薬害問題	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（15%）、試験（85%）。基本概念や用語の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出す。解答の論理性を重視して評価する。
教材教科書参考書	宇都宮京子編『よくわかる社会学［第2版］』ミネルヴァ書房
留意点	

科目名	情報の科学Ａ	科目コード	1限目	G53000	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			3限目	G53001		30時間				
			4限目	G53002						

区分	一般教育科目	必修	担当者名	坂井　任	授業形態	講義	単独

授業の概要	パソコンの基本的な操作法と代表的なアプリケーションであるワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの使用法を学ぶ。
到達目標	パソコン初心者でも、基本文書等の作成ができるようになることを目標とする。レポートや資料の作成に困らない技能を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	パソコンの起動とWindowsの基礎	Windowsの起動と終了 アプリケーションソフトの基本操作	
第2回	インターネット	インターネットの利用	
第3回	Word 1	Wordの起動と終了 文字入力	
第4回	Word 2	漢字変換 文章の入力・訂正	
第5回	Word 3	ファイルの保存と読み込み・ページ設定と印刷 文書の作成・文字の書式	
第6回	Word 4	表・画像と図形	
第7回	課題第1回	Word課題	
第8回	情報検索／課題第2回	インターネットで情報検索	
第9回	電子メール／課題第3回	電子メール・添付ファイル	
第10回	Excel 1	Excelの起動と終了 データ入力の基礎	
第11回	Excel 2	ワークシート編集 関数を使った計算式・相対参照と絶対参照	
第12回	Excel 3	罫線・グラフ・条件判定	
第13回	課題第4回	Excel課題	
第14回	PowerPoint 1	PowerPointの起動・プレゼンテーションの作成	
第15回	PowerPoint 2	アニメーション効果・スライドショー	

評価方法及び評価基準	課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。
教材教科書参考書	『30時間でマスターOffice 2013』実教出版(本体1000円+税)　※対応年度に注意
留意点	受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 上記教科書を購入すること。 USBメモリーを用意すること。

科目名	情報の科学Ｂ	科目コード	3限目	G53004	単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
			4限目	G53005		30時間				

区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井　任	授業形態	講義	単独

授業の概要	ワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの効果的な使用法を、問題練習を通じて学ぶ。
到達目標	文書や資料の実践的な作成能力を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス+コンピュータの基本操作	ガイダンス コンピュータの基本操作	
第2回	Word 1	文書の作成と管理	
第3回	Word 2	一般的なビジネス文書の作成	
第4回	Word 3	シンプルなレポートや報告書の作成	
第5回	Word 4	既存のデータを利用した文書の作成	
第6回	課題第1回	Wordの課題	
第7回	Excel 1	表作成の基本操作	
第8回	Excel 2	表を見やすく使いやすくする編集操作	
第9回	Excel 3	数式・関数を活用した集計表の作成	
第10回	Excel 4	グラフの基本	
第11回	課題第2回	Excelの課題	
第12回	PowerPoint 1	プレゼンテーションの企画／わかりやすいストーリー構成	
第13回	PowerPoint 2	センスアップするレイアウトデザイン	
第14回	PowerPoint 3	イメージを伝えるイラスト・写真活用	
第15回	課題第3回	PowerPointの課題	

評価方法及び評価基準	課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。
教材教科書参考書	『情報利活用コンピュータリテラシーOffice2013/2010対応』日経BP社(本体1600円+税)　※対応年度に注意
留意点	定員：各コマ40名（履修者の調整をすることがあるので掲示に注意） 受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 USBメモリーを用意すること。

科目名	環境の科学	科目コード	G53006	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	北村　繁		授業形態	講義	単独	

授業の概要	［キーワード：　火山、噴火、災害、自然の豊かさ、減災　］ ①火山地形②火山噴火と火山災害③火山の恵み④火山周辺地域の減災・防災
到達目標	身近な地形の中で、特に、火山地形を取り上げ、火山地形を形成するプロセス＝噴火と、噴火に伴う火山災害、および、その防災・減災について学ぶ。また、同時に、なぜ人間が火山災害を被るような地域に住み続けてきたか考える。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	火山とは何か	火山の定義と火山に関連した用語を整理する	
第2回	火山地形	火山を形からとらえる	
第3回	火山地形２、噴火で放出されるもの	火山を形からとらえる、噴火の概要を理解する	
第4回	マグマの性質	マグマが性質から分類されること、また、分類されたマグマがそれぞれどのような性質をもつかを知る	
第5回	溶岩流とその分類	様々な溶岩流について学習し、その性質とマグマとの関連性についても考える	
第6回	溶岩流による災害	溶岩流によってどのような災害が生じるかを学習する	
第7回	降下火山灰と火山地形	降下火山灰について学習し、それが作り出す地形を知る	
第8回	降下火山灰による災害	降下火山灰によってどのような災害が生じるかを学習する	
第9回	火砕流の性質と災害	熱雲の学習を通して、火砕流の性質と災害について学ぶ	
第10回	火砕流と火山地形	軽石流や大規模火砕流と呼ばれる火砕流とそれを発生させる噴火によって、どのような地形や災害が生じるかを知る	
第11回	山体崩壊・岩屑なだれと津波	火山性の大規模な山体崩壊とそれによって生じる岩屑なだれについて学び、それによって発生する災害についても学習する	
第12回	火山泥流と災害	火山泥流について学び、それによって生じる災害について学習する	
第13回	火山ガスと災害	火山ガスとそれによって生じる災害について学習する	
第14回	火山の恵み	火山が人間にもたらす恵みについて多角的に学習する	
第15回	火山周辺地域の減災・防災	火山災害の軽減や防止のためのとりくみについて学習する	

評価方法及び評価基準	平常点評価（口頭試問を含む）とレポート（2000字程度、複数の課題からひとつを選択）。レポート（９５点満点）と平常点評価（５点満点）を加えて６０点未満は不可。
教材 教科書 参考書	教科書は指定しない。資料プリント配布。参考図書は、講義中に紹介するほか、スライドや資料プリントの出典に示す。
留意点	履修にあたっては、火山について、自然地理Ａの講義程度の知識があった方が望ましい。 講義中、指名して質問しますので、ご承知おきください。

科目名	生命の科学Ａ	科目コード	G53010	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	吉岡　利忠		授業形態	講義		単独
授業の概要	生命の誕生からヒトへの成長過程を学習する。								
到達目標	生命の誕生から生体の形態や機能について知る。 病気の概念について知る。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	生命の誕生Ⅰ	細胞の形態と機能Ⅰ	
第2回	生命の誕生Ⅱ	細胞の形態と機能Ⅱ	
第3回	生命の誕生Ⅲ	細胞の形態と機能Ⅲ	
第4回	生体のしくみⅠ	組織や器官の成り立ちⅠ	
第5回	生体のしくみⅡ	組織や器官の成り立ちⅡ	
第6回	生体のしくみⅢ	組織や器官の成り立ちⅢ	
第7回	病気とはⅠ	病気の病態生理学的概念を知るⅠ	
第8回	病気とはⅡ	病気の病態生理学的概念を知るⅡ	
第9回	健康とは	健康の概念を知る	
第10回	平均寿命とは	寿命の概念を知る	
第11回	健康寿命とは	健康と病気について	
第12回	分析機器	分析機器の発展とその限度	
第13回	感染症Ⅰ	感染症とその対策についてⅠ	
第14回	感染症Ⅱ	感染症とその対策についてⅡ	
第15回	遺伝子病	遺伝子病についての詳細を知る	

評価方法及び評価基準	課題レポートによる評価(100%) 到達目標をどの程度達成されているのかをみる
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布
留意点	新聞の科学欄に必ず目を通す姿勢を身につける。

科目名	生命の科学Ｂ	科目コード	G53011	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田　宗弘		授業形態	講義	単独	

授業の概要	21世紀は生命科学の時代といわれており、マスメディアからは病気の治療や医療技術の発展など生命科学と密接に関連する多くの情報が発せられています。一方、生命科学の進歩により新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うことを目標とし、生命の基本単位である細胞、遺伝子とその発現の制御、身体がつくられる過程などの生物学の基礎知識とともに、脳、がん、食と健康、免疫について学習します。また環境と生物のかかわり、生命科学技術、生命倫理、身体運動や老化による細胞の変化について学習します。さらに新聞の科学欄に掲載された記事についても解説します。
到達目標	1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を理解する。 2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。 3. 新聞やテレビなどで報道される生物学（生命科学・医学）に関わる情報を理解し、その情報を分析できるようになる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	生命科学と現代社会のかかわり	生物・生命科学とは、自然科学とは、21世紀の生命科学	
第2回	細胞：生命の基本単位	どのようにして生物は細胞からできていることが明らかにされたのか、進化の過程でどのようにして細胞ができたのか、実験室で細胞を人為的に作成することは可能か、細胞はなぜ小さいのか	
第3回	生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA	メンデルの遺伝学、メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則、なぜ表現型として現れない形質があるのか	
第4回	生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA	転写のしくみ、遺伝子発現を制御するもの、突然変異とはなにか？、突然変異の種類、DNAの修復機構	
第5回	ゲノム情報はどのように発現するか	個人差とゲノム、遺伝と環境、エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノムの異常と病気	
第6回	複雑な体はどのようにしてつくられるか	発生の段階、細胞分化と器官形成、ホメオティック遺伝子、動物の発生と進化、種々の幹細胞と再生医療への応用	
第7回	脳はどこまでわかったか	ヒトの脳の構造、神経細胞、臨界期、記憶と学習の種類、記憶と長期増強、認知症、運動が脳に及ぼす影響	
第8回	がんとはどのような現象か	日本人の死因、細胞増殖および細胞死、発がんとがん遺伝子、がん抑制遺伝子、細胞のシグナル伝達、がんの診断と病理および治療	
第9回	食と健康	食べるとは、消化と吸収、酵素（酵素ダイエットは有効か？）、生物エネルギーとATP、食と健康をめぐる最近の話題	
第10回	ヒトは病原体にどのように備えるのか	人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、微生物と感染、免疫とは何か、免疫応答のしくみ	
第11回	身体運動の生命科学	生活習慣病、生活習慣病と体力または運動習慣の関係、インスリン抵抗性、身体運動時のエネルギー基質、	
第12回	身体運動の生命科学	運動時のホルモンの変化、骨格筋の糖取り込みに関わるシグナル伝達経路、毛細血管の変化、運動による脳の変化	
第13回	老化	老化とは、老化のメカニズム、老化学説、老化を遅らせることはできるのか？、サプリメントの効果、カロリー制限	
第14回	生命科学技術と生命倫理。	古い歴史をもつバイオ技術、バイオ技術としての新しい医薬品生産、品種改良の歴史、微量のDNAを増幅させるPCR技術、生命倫理とは、生命倫理の原則、生命倫理と宗教、人体の商品化、	
第15回	環境と生物	環境と適応、恒常性と環境応答、有性生殖と環境適応、生物と環境の相互作用、生態系の構造と動態、生物多様性と地球環境の保全	

評価方法及び評価基準	テスト（100%）により評価する（2/3以上の出席者）。テストは論述式で、授業で扱った内容（専門用語、生命現象、生命科学の進歩により新たに生まれる問題など）についての理解を問う問題を出し、その理解度と文章の論理性について評価します。
教材 教科書 参考書	教科書：現代生命科学、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社（必ず購入してください。） 参考書：①カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書、第１巻～第３巻、　D・サダヴァ　他著、石崎 泰樹／丸山 敬　監訳・翻訳 ②健康に老いる　老化とアンチエイジングの科学　後藤佐多良　著、東京堂出版（①、②の参考書は購入する必要はありません。） 講義資料を配布することがある。
留意点	新聞の科学欄（特に医学・生命科学・医療関係の記事）を読むようにしてください。

科目名	科学と現代Ａ	科目コード	G53008	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井　任		授業形態	講義	単独	

授業の概要	本講義では、身の回りのもの・現象や新聞・ニュースの科学用語などに題材を取って、科学がどのように役立っているかを実感してもらうことを目標とする。
到達目標	身近な自然現象、身の周りのハイテク製品、社会を支える科学技術がどのような原理に基づいているのかを学ぶ。また、現代物理の自然観を学ぶ。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	物理学の構成	巨視的世界と微視的世界	
第2回	単位と次元	SI単位系の成立 組立単位と次元	プリント配布
第3回	力学の法則	運動の三法則 エネルギー保存則と運動量保存則	
第4回	円運動と遠心力	慣性力 等速円運動と遠心力	プリント配布
第5回	エネルギー	力学的なエネルギー エネルギー保存則とエネルギーの転換	プリント配布
第6回	振動現象	振動 振り子・パラメーター励振	プリント配布
第7回	波と電磁波	波の要素・音波 電磁波	プリント配布
第8回	熱と温度	熱平衡・温度 熱と比熱	プリント配布
第9回	原子核と放射線	原子と原子核の構造・原子核の崩壊 原子核の崩壊様式と放射線	プリント配布
第10回	核分裂・核融合	核反応の保存則・核分裂・核分裂連鎖反応と臨界 核融合	プリント配布
第11回	放射線と医療	放射線の種類・X線撮影・核医学診断画像・ガン治療	プリント配布
第12回	宇宙進化と元素の起源	宇宙の始まり・宇宙の元素組成・恒星中での元素合成 超新星爆発による核融合	プリント配布
第13回	素粒子	素粒子の分類・4つの相互作用	プリント配布
第14回	ニュートリノ	弱い相互作用 ニュートリノ振動とニュートリノの質量	プリント配布
第15回	半導体とLED	半導体・電子/正孔とN型/P型半導体 半導体デバイス・LED	プリント配布

評価方法及び評価基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。
教材 教科書 参考書	必要に応じてプリント配布
留意点	

科目名	科学と現代Ｂ	科目コード	G53009	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井　任		授業形態	講義	単独	

授業の概要	数学の言葉と技法は、自然現象から経済・社会などの人間活動まで、様々な事象を記述し解析するのに役立っている。計算技術よりも考え方に重点を置いて解説する。
到達目標	確率・統計の基本的な概念を理解し、考え方を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	確率の基礎	確率の性質 確率の加法定理	
第2回	確率的推論（１）	確率の乗法定理 独立試行	
第3回	確率的推論（２）	ベイズの定理	
第4回	統計学の考え方	統計学の目的・統計学の種類 統計データの整理法	プリント配布
第5回	代表値と散布度	代表値 散布度	プリント配布
第6回	正規分布	確率分布・正規分布 正規分布の標準化・正規分布表	プリント配布
第7回	相関と回帰分析	相関・相関係数 回帰分析	プリント配布
第8回	推定と検定（１）	母集団と標本 点推定	
第9回	推定と検定（２）	母分散が既知のときの母平均の区間推定 t分布	プリント配布
第10回	推定と検定（３）	母分散が未知のときの母平均の区間推定	
第11回	推定と検定（４）	母比率の区間推定	
第12回	推定と検定（５）	検定の手順 検定の誤り	
第13回	推定と検定（６）	両側検定と片側検定 母平均の検定	
第14回	推定と検定（７）	母比率の検定	
第15回	試験解答	試験解答　（この授業は最終週に行う）	

評価方法及び評価基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。
教材 教科書 参考書	必要に応じてプリント配布
留意点	15週目(今年度は1月18日)に試験を行い、最終回に上記第15回の内容を行う予定である。

科目名	科学と現代Ｃ	科目コード	G53012	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	北村　繁		授業形態	講義	単独	

授業の概要	[キーワード：　地形学・地形図・土石流・洪水・地震・噴火　] ①地形に関する資料の読み方（地形図・空中写真など）　②水の流れが生み出す地形　③地震を生じさせる活動が生み出す地形　④火山地形
到達目標	自然地理学の中でも特に地形学の基礎的な方法論・理論を学習するとともに、地形を形成する自然現象についての理解を深める。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	地形図の読み方①（標高）	等高線から標高を読み取る方法を学習し、高度段彩図の作成を通して、標高を読む練習をする	
第2回	地形図の読み方②（地形断面図）	等高線から地形を読み取る方法を学習し、地形断面図の作成を通して、地形を読む練習をする	
第3回	地形図の読み方③（尾根と谷）	尾根・谷の記入を通して、地形を読む練習をする（地形図の読み取りに関するレポート課題の出題を含む）	
第4回	空中写真地図の利用	ステレオ・ペアの実体視により空中写真から地形を読み取ることができることを学習する	
第5回	地形輪廻、山地の地形、扇状地	地形発達の基本となる考え方を学習し、山地と山地の縁辺部に形成される地形について学ぶ	
第6回	自然堤防、氾濫原、デルタ、ベンチ	平野にみられる地形とその形成過程について学習するとともに、河川氾濫による災害について学ぶ	
第7回	段丘と気候変動	海岸段丘について学び、気候変動との関連性について考える	
第8回	段丘と地盤隆起	海岸段丘や河岸段丘から地盤の隆起を考える	
第9回	地震断層、活断層と地形	地震断層について学ぶとともに、活断層と断層地形について学習する	
第10回	断層と広域応力場	断層地形から広域応力場について考える	
第11回	世界の地形と地質	陸地と海底の大地形と地質について学び、プレート運動について考察する	
第12回	プレート理論	プレート理論とマントル対流仮説について学習する（地形に関するレポート課題の出題を含む）	
第13回	火山とは何か	火山の定義と火山に関連した用語について学習する	
第14回	火山とプレート理論	火山の分布とプレート理論との関連性について学習する	
第15回	地形の年齢のはかり方	年代や年代測定の方法について学習する	

評価方法及び評価基準	平常点評価（口頭試問を含む）とレポート（２回を予定）。レポートの合計点（９５点満点）と平常点評価（５点満点）を加えて６０点未満は不可。
教材教科書参考書	教科書は指定しない。資料プリント配布。参考図書は、講義中に紹介するほか、スライドや資料プリントの出典に示す。
留意点	12色程度の色鉛筆・定規が必要。また、講義中、指名して質問しますので、ご承知おきください。

科目名	科学と現代Ｄ	科目コード	G53013	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	長南　幸安		授業形態	講義	単独	

授業の概要	人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるようになるために、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得する。
到達目標	生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得することを目的とします。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得することです。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	化学の基本事項	ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。化学の基本事項として物質変化・物質の分類・化学反応熱について。またその身近な具体例示。	
第2回	酸性・塩基性の化学	酸・塩基の三つの定義。食品の酸性とアルカリ性。酸性や塩基性の身近な物質。中和反応を利用した料理方法など。	
第3回	衣服の化学	衣服の生理学的・社会学的目的。天然繊維と合成繊維の種類と合成方法。最新の機能性新素材。	
第4回	洗濯の化学	汚れの種類。界面活性剤の構造と機能。石けんの歴史と合成方法。洗剤に含まれている化学物質と合成洗剤の特徴。	
第5回	水の化学	水の構造とそれによる分極、および水素結合。水素結合による沸点上昇・表面張力などの現象。ミネラルウォーターの定義と硬水・軟水。	
第6回	プラスチックの化学	プラスチックの合成方法（縮合重合・付加重合）。熱可塑性と熱硬化性。新機能性プラスチックとプラスチックのリサイクル。	
第7回	料理の化学	五大栄養素と三大栄養素。ビタミンの種類（水溶性と脂溶性）。ミネラルと必須ミネラル。五つの味覚と発酵食品。	
第8回	コロイドの化学	コロイドの定義と種類。身近なコロイドの具体例。チンダル現象やブラウン運動などコロイドの特徴的な性質と現象。	
第9回	薬の化学	リード化合物発見のためのランダムスクリーニングとハイスループットスクリーニング。リード化合物の構造最適化。薬発見の具体的例示。食との飲み合わせについて。	
第10回	化石資源の化学	石油・石炭・天然ガスの特徴について。化石資源・化石燃料と呼ばれる理由。またそれぞれの利用方法と最新の技術。環境汚染物質の発生について。	
第11回	身近な材料の化学	セラミックスの定義と特徴。身近な具体例。ファインセラミックスの定義と具体例。材料としての金属の歴史と特徴、利用例。最新の材料。	
第12回	電池の化学	電気・電池の発見と改良の歴史。電池の種類とそれぞれの特徴。電池の化学的原理と構造。最新の電池技術。	
第13回	電気製品の化学	永久磁石と電磁石の違いと特徴。電磁力を利用した電化製品や電子技術に関して。液晶の定義と化学的原理。	
第14回	固・液・気の化学	状態変化の定義と身近な事象について。状態変化を利用した様々な現象とその化学的原理や法則について。	
第15回	まとめ＋試験	今までの総まとめと、確認テストの実施。	

評価方法及び評価基準	期末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減（±20%まで）し、総合的に判断し評価します。
教材教科書参考書	「身の回りから見た 化学の基礎」芝原寛泰・後藤景子　共著　化学同人
留意点	毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修者向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。

科目名	地域研究Ａ	科目コード	G54000	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	入江　英弥		授業形態	講義	単独	

授業の概要	〔キーワード：　地域・年中行事　〕 　日本の年中行事を通して、地域性を考える。 とくに津軽地方の年中行事を取り上げて、他地域の行事との比較により位置づけを行う。
到達目標	地域に伝えられた年中行事から、その地域の特徴を説明することができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス　課題の説明	授業の概要について説明する。また、課題についても説明する。	講義形式
第2回	正月行事①　正月の食	雑煮や、けの汁を通して、食の地域性について考える。 事前に大晦日の食について聞き書きしておくこと。	
第3回	正月行事②　七草	人日の行事の歴史を押さえながら、各地の行事を捉える。 事前に七草粥について聞き書きしておくこと。	
第4回	正月行事③　小正月①	津軽における小正月の行事を取り上げて、その特徴を考える。 事前に小正月について聞き書きしておくこと。	
第5回	正月行事④　小正月②	津軽における小正月の行事を取り上げて、その特徴を考える。 事前に小正月について聞き書きしておくこと。	
第6回	節分	伝統的な節分行事を押さえながら、近年の恵方巻について考える。事前に節分について聞き書きしておくこと。	
第7回	ひな祭り	三月節供の歴史を捉えながら、津軽地方の行事を考える。 事前に上巳の節供について聞き書きしておくこと。	
第8回	端午の節供	五月節供の歴史を捉えながら、津軽地方の行事を考える。 事前に端午の節供について聞き書きしておくこと。	
第9回	七夕とねぷた①	七夕行事として行われるねぷたの歴史を考える。 事前にねぷたについて聞き書きしておくこと。	
第10回	七夕とねぷた②	津軽地方のねぶたの地域性について考える。	
第11回	盆行事	地域の盆行事について考える。 事前に盆の行事について聞き書きしておくこと。	
第12回	月見	葉月十五夜についてアジア圏の中で捉える。 事前にお月見について聞き書きしておくこと。	
第13回	貴族の家の年中行事	京都の冷泉家の年中行事を取り上げて、その特徴を考える。 庶民の家の年中行事と比較してみる。	
第14回	小テストとまとめ	授業内容に関する小テストを行い、知識の確認を行う。	
第15回	振り返り	授業内容の振り返りを行う。	

評価方法及び評価基準	小報告30%、小テスト70%　小報告は行事を正確に記述できたかで評価する。 小テストは、授業内容をまとめた上で、自分なりの考察ができたかがポイントになる。
教材教科書参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。
留意点	適宜、行事に関して報告してもらう。

科目名	地域研究Ｂ	科目コード	G54001	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	吉岡　利忠、井上　諭一、今村　かほる、葛西　久志、高橋　和幸、大瀬　富士子		授業形態	講義	オムニバス	

授業の概要	講義は、オムニバス形式で行う。３学部の教員が共同体制で行う講義で、広く専門的な観点から、津軽や東北、あるいは日本といった、視点を変えての問題意識を学ぶ。青森県津軽のような「方言主流社会」において、方言話者と非方言話者との共生について考える。また、高齢化を主とした世代間コミュニケーションの問題についても取り組む。
到達目標	方言主流社会における生活者を、どのように支援していくか、そのための理論と方法を学び、実践に応用できるレベルに達することを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	地域課題とコミュニケーション	本講義の目指す地域の抱える課題と解決への方向性について理解する	4/11　今村
第2回	（言語１）　「方言概説」	地域方言としての津軽弁・東北方言と共通語の歴史について知る	4/18　今村
第3回	（言語２）「先行研究から」	医療・看護・福祉と方言研究の研究史を実際の資料を使って概観する	4/25　今村
第4回	（言語３）「津軽の問題を中心に」	地域課題としての高齢化と世代間コミュニケーションギャップの問題を考える	5/2　今村
第5回	（言語４）「震災と方言」	東日本大震災における被災地での支援者と被災者とのコミュニケーションギャップについて考える	5/9　今村
第6回	（言語５）「保健医療福祉と方言 –よりよく生きるために–」	これからの医療・看護・福祉を取り巻く問題　外国人労働者・少子化問題を考える	5/16　今村
第7回	（看護）「方言と看護」	看護における対象者の尊厳を守る方言を考える	5/23　大瀬
第8回	（文学１）「津軽弁の考え方(パラダイム)－１；沈黙--葛西善蔵・太宰治」	必要なことをあえて言わない、という伝達の仕方もある。津軽弁には特に印象的な例があり、それを津軽出身の作家による芸術的な文章の中に探る。	5/30　井上
第9回	（文学２）「津軽弁の考え方(パラダイム)－２；饒舌--寺山修司・ナンシー関」	虚実を織り交ぜ、時には読み進めることさえ難しいほど複雑になってしまう伝達の様式を、津軽出身作家の文章の中に探る。	6/7　井上
第10回	（文学３）　「津軽弁の考え方(パラダイム)３；記憶—川上健一」	長い年月を経て純化され改変される記憶が、ついには「物語」を生み出していく過程を捉える。	6/13　井上
第11回	（社会福祉１）「津軽弁と暮らし－心の病をもった人たちとの関わりから－」	①精神科診療場面を方言（津軽弁）から理解する。②コミュニケーションおける意思伝達と精神障害者の行動特性を学ぶ。③その他	6/20　葛西
第12回	（社会福祉２）「方言と暮らし1」	同じ訛りがあることに親しみを感じたり、同じ地域に住むことで一体感が生まれやすかったり、伝統文化や食文化には地域間で違いがあったりすることを再認識して頂く。その地方独特の方言と暮らしを尊重できるよう、話題提供したい。	7/4　高橋
第13回	（社会福祉3）「方言と暮らし」	同じ訛りがあることに親しみを感じたり、同じ地域に住むことで一体感が生まれやすかったり、伝統文化や食文化には地域間で違いがあったりすることを再認識して頂く。その地方独特の方言と暮らしを尊重できるよう、話題提供したい。	7/11　高橋
第14回	（医療）「津軽弁、南部弁の中の病気と症状」	特にその地方特有の疾患名については、青森県南部・津軽地方で極めて特徴的である。また症状の訴え方にしても同様であり、さまざまな例を提示して学習する	7/18　吉岡
第15回	総括および講義評価	オムニバスの講義全体を振り返り、地域課題に対する多角的考察を試みる。また、受講者からの講義評価を実施する。	7/25　今村

評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。講義時間中の課題によって出席に替える場合もある。レポートの場合、講義内容を整理しただけのものは「可」、先行研究を調べたものは「良」、先行研究を広く調べ知見を得ているものは「優」、さらに独創的な見解にいたったものは「秀」とする。
教材教科書参考書	各担当者により、プリント等を配布する
留意点	担当者により、講義時に課題・レポート・実技等を課すので、それぞれの指示に従うこと

科目名	教養演習Ａ	科目コード	G50026	単位数時間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木　正晴		授業形態	演習	単独	

授業の概要	視野を上下逆さにするめがねをかけると，当初，つまずいて転んだり，うまく物をつかめず落としたりする．その状況を克服していく過程を明らかにする．ひとりひとりが実験者であり被験者．視野を遮蔽するアイマスク事態，視野を制限するピンホール事態を実験圏内に据える
到達目標	A.逆さめがねをかけた当初，障害状況が起こる．その障害状況を打開すること B.その形成過程を理論化すること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	演習の手順	演習の進め方.実験装置の説明	
第2回	視覚世界の崩壊を体験	アイマスク，逆さめがね，ピンホールを体験	
第3回	場所を変えて体験	公園にてブランコ，滑り台，鉄棒の実験	
第4回	過去の実験を参照	前年度の実験成果・報告書の読み合わせ	
第5回	実験の意義を考える	前年度の実験成果・報告書の読み合わせ	
第6回	実験の意義を理解した上でもう一度体験	アイマスク，逆さめがね，ピンホールを体験	
第7回	実験課題を決定	実験Group形成	
第8回	視覚剥奪の意味を知る	実験開始．視野遮蔽実験	
第9回	視覚変換の意味を知る	逆さめがね実験	
第10回	視覚制限の意味を知る	視野制限実験	
第11回	報告書作成，議論	報告書発表	
第12回	報告書の作成方法を知る	報告書発表	
第13回	新しい実験を考える	再度，実験	
第14回	もう一度報告書作成	報告書作成	
第15回	じぶんがしたことをふりかえる	総括．成果発表(Power P.)	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，実験の企画書，実施，報告書50%．毎回，実験に関する問題を出し，小レポートを課する．小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする.実験の企画書，報告書では，規格に準じて作成されているか，実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めて実験すること

科目名	教養演習Ｂ	科目コード	G50027	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木　正晴		授業形態	演習	単独	

授業の概要	視野を上下逆さにするめがねをかけると，当初，つまずいて転んだり，うまく物をつかめず落としたりする．その状況を克服していく過程を明らかにする．ひとりひとりが実験者であり被験者になる．教養演習Aと方針は同じである．視野を遮蔽するアイマスク事態，視野を制限するピンホール事態を実験圏内に据える
到達目標	A.逆さめがねをかけた当初，障害状況が起こる．その障害状況を打開すること B.その形成過程を理論化すること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	前期成果を確かめる	演習の進め方.実験装置の説明	
第2回	前期実験を繰り返し新しい意味を見つける	公園にてブランコ，滑り台，鉄棒，実験	
第3回	新しい実験課題をつくる	実験Group形成．新たな問題を設定	
第4回	実験をじぶんたちで行う	各Group実験開始	
第5回	実験場所を見つけてじぶんたちで行う	屋内歩行実験，報告書	
第6回	実験場所を見つけてじぶんたちで行う	屋外歩行実験，報告書	
第7回	屋内と実験結果を比較する	公園歩行実験，報告書	
第8回	3つの事態の結果を比較する	食事実験，報告書	
第9回	3つの事態の結果を比較する	楽器演奏実験，報告書	
第10回	3つの事態の結果を比較する	書字実験，報告書	
第11回	全実験を比較する，図表をつくる	まとめ	
第12回	次に問題を探す	追加実験，報告書	
第13回	全経過を眺め，まとめる	全体実験，報告書	
第14回	発表の技法を考える	総括，成果発表(Power P.)の準備	
第15回	発表の技法を確立する	成果発表(Power P.)	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，実験の企画書，実施，報告書50%．毎回，小レポートを課する．小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする.実験の企画書，報告書では，規格に準じて作成されているか，実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めて実験すること

科目名	教養演習Ｃ	科目コード	G50028	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木　正晴		授業形態	演習	単独	

授業の概要	視野の全領域を遮蔽するアイマスクと視野の周辺領域を遮蔽するゴーグルをかけると，当初，つまずいて転んだり，うまく物をつかめず落としたりする．その状況を克服していく過程を明らかにする．ひとりひとりが実験者であり被験者．視野を変換する逆さめがね事態を実験圏内に据える。
到達目標	A.アイマスクあるいはゴーグルをかけた当初，障害状況が起こる．その障害状況を打開すること B.その形成過程を理論化すること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	演習の手順	演習の進め方.実験装置の説明	
第2回	視覚世界の崩壊を体験	アイマスク，逆さめがね，ピンホールを体験	
第3回	場所を変えて体験	公園にてブランコ，滑り台，鉄棒の実験	
第4回	過去の実験を参照	前年度の実験成果・報告書の読み合わせ	
第5回	実験の意義を考える	前年度の実験成果・報告書の読み合わせ	
第6回	実験の意義を理解した上でもう一度体験	アイマスク，逆さめがね，ピンホールを体験	
第7回	実験課題を決定	実験Group形成	
第8回	視覚剥奪の意味を知る	実験開始．視野遮蔽実験	
第9回	視覚変換の意味を知る	逆さめがね実験	
第10回	視覚制限の意味を知る	視野制限実験	
第11回	報告書作成，議論	報告書発表	
第12回	報告書の作成方法を知る	報告書発表	
第13回	新しい実験を考える	再度，実験	
第14回	もう一度報告書作成	報告書作成	
第15回	じぶんがしたことをふりかえる	総括．成果発表(Power P.)	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，実験の企画書，実施，報告書50%．毎回，実験に関する問題を出し，小レポートを課する．小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする.実験の企画書，報告書では，規格に準じて作成されているか，実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めて実験すること

科目名	教養演習Ｄ	科目コード	G50029	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木　正晴		授業形態	演習	単独	

授業の概要	視野の全領域を遮蔽するアイマスクと視野の周辺領域を遮蔽するゴーグルをかけると，当初，つまずいて転んだり，うまく物をつかめず落としたりする．その状況を克服していく過程を明らかにする．ひとりひとりが実験者であり被験者．教養演習Cと方針は同じである.視野を変換する逆さめがね事態を実験圏内に据える。
到達目標	A.アイマスクあるいはゴーグルをかけた当初，障害状況が起こる．その障害状況を打開すること B.その形成過程を理論化すること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	前期成果を確かめる	過去の報告書を読み合わせ	
第2回	前期実験を繰り返し新しい意味を見つける	公園にてブランコ，滑り台，鉄棒，実験	
第3回	新しい実験課題をつくる	実験Group形成．新たな問題を設定	
第4回	実験をじぶんたちで行う	各Group実験開始	
第5回	実験場所を見つけてじぶんたちで行う	屋内歩行実験，報告書	
第6回	実験場所を見つけてじぶんたちで行う	屋外歩行実験，報告書	
第7回	屋内と実験結果を比較する	公園歩行実験，報告書	
第8回	3つの事態の結果を比較する	食事実験，報告書	
第9回	3つの事態の結果を比較する	楽器演奏実験，報告書	
第10回	3つの事態の結果を比較する	書字実験，報告書	
第11回	全実験を比較する，図表をつくる	まとめ	
第12回	次に問題を探す	追加実験，報告書	
第13回	全経過を眺め，まとめる	全体実験，報告書	
第14回	発表の技法を考える	総括，成果発表(Power P.)の準備	
第15回	発表の技法を確立する	成果発表(Power P.)	

評価方法及び評価基準	平常点評価50%，実験の企画書，実施，報告書50%．毎回，実験に関する問題を出し，小レポートを課する．小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする.実験の企画書，報告書では，規格に準じて作成されているか，実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する
教材教科書参考書	なし.プリント配布
留意点	心を込めて実験すること

科目名	教養演習Ｅ	科目コード	G50030	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田　学		授業形態	演習	単独	

授業の概要	西洋文化の根源である古代ギリシア、その古典期（紀元前5世紀、4世紀）のギリシア語文法を学ぶ。
到達目標	できるだけ多くの文法項目を理解し、ギリシア文の和訳ができるようになること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	字母、発音、音節	文字と発音に慣れる	
第2回	現在直説法能動相	左記項目を学ぶ	
第3回	第一変化の名詞	左記項目を学ぶ	
第4回	未来直説法能動相	左記項目を学ぶ	
第5回	未完了過去直説法能動相	左記項目を学ぶ	
第6回	第二変化の名詞	左記項目を学ぶ	
第7回	形容詞、前置詞	左記項目を学ぶ	
第8回	アオリスト直説法能動相	左記項目を学ぶ	
第9回	現在完了、過去完了直説法能動相	左記項目を学ぶ	
第10回	指示代名詞、疑問代名詞、不定代名詞	左記項目を学ぶ	
第11回	現在、未完了過去、未来の直説法中動相	左記項目を学ぶ	
第12回	アオリスト、現在完了、過去完了、未来完了の直説法中動相	左記項目を学ぶ	
第13回	人称代名詞、再帰代名詞、相互代名詞	左記項目を学ぶ	
第14回	第二アオリスト直説法能動相と中動相	左記項目を学ぶ	
第15回	まとめ	全体のまとめ	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト(50%)。テスト(文法の基礎について)の評価は正解獲得点数によって行う。
教材 教科書 参考書	『ギリシア語入門　新装版』（田中美知太郎、松平千秋　岩波書店　2200円）
留意点	

科目名	教養演習Ｆ	科目コード	G50031	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田　学		授業形態	講義	単独	

授業の概要	文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える実用表現を中心に学ぶ。また、現代ドイツを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。毎週担当者を決めて、各自興味をもつ「ドイツ文化」に関する短いプレゼンの時間も設定する。
到達目標	文法を正確に理解すること。また、ドイツ社会を理解する基礎知識を得ること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	ガイダンス、発音練習	綴りと発音を理解する	
第2回	人称代名詞、動詞の現在人称変化	動詞の変化を学ぶ	
第3回	名詞と性、定冠詞、不定冠詞	格変化を学ぶ	
第4回	人称代名詞	格変化を学ぶ	
第5回	前置詞、否定表現	kein,nicht の用法	
第6回	形容詞	格変化を学ぶ	
第7回	従属接続詞	従属接続詞を用いた文を学ぶ	
第8回	話法の助動詞	用法を学ぶ	
第9回	動詞の３基本形	不定詞、過去基本形、過去分詞を学ぶ	
第10回	現在完了	用法を学ぶ	
第11回	分離動詞、非分離動詞、再帰動詞	用法を学ぶ	
第12回	関係代名詞	関係代名詞を用いた文を学ぶ	
第13回	受動文	用法を学ぶ	
第14回	接続法	用法を学ぶ	
第15回	まとめ	全体のまとめ	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト(50%)。テスト(文法の基礎について)の評価は正解獲得点数によって行う。
教材教科書参考書	『Alternativ　Deutsche Grammatik als zweite Fremdsprache』(Michio Kamitake,郁文堂、CD付2600円)
留意点	初回に必ず教科書持参のこと。ドイツ語を初めて習う人は相応の努力が必要。

科目名	教養演習Ｇ	科目コード	G50032	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田　学		授業形態	講義	単独	

授業の概要	文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える実用表現を中心に学ぶ。また、現代フランスを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。毎週担当者を決めて、各自興味をもつ「フランス文化」に関する短いプレゼンの時間も設定する。
到達目標	文法を正確に理解すること。また、フランス社会を理解する基礎知識を得ること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	発音の基礎	発音に慣れる	
第2回	Tu es japonais?	国籍、職業をたずねる、答える	
第3回	Est-ce que tu travailles?	規則動詞の活用に慣れる	
第4回	Tu aimes le sport?	名詞と定冠詞	
第5回	Tu déjeunes où?	３つの疑問の形	
第6回	Tu as des frères et soeurs?	基本動詞を覚える（～14回まで）	
第7回	Votre grande soeur,elle est comment ?	所有形容詞	
第8回	Tu fais quoi en général le soir?	様々な活動について話す	
第9回	Tu prends quoi en général le matin?	食事について話す	
第10回	Où est-ce que tu vas le week-end ?	場所を表す前置詞	
第11回	Tu téléphones souvent à ta mère ?	代名動詞	
第12回	Tu pars de la maison à quelle heure ?	時刻の表現、近未来	
第13回	Il fait quel temps à Paris en juillet ?	天候の表現	
第14回	Qu'est-ce que tu as fait l'été dernier ?	複合過去を用いて、過去の事柄を話す	
第15回	まとめ	全体のまとめ	

評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト(50%)。テスト(文法の基礎について)の評価は正解獲得点数によって行う。
教材教科書参考書	『Dis-moi tout!』(Léna Giunta&Tomohiko Kiyooka,白水社、CD付2500円)
留意点	初回に必ず教科書持参のこと。フランス語を初めて習う人は相応の努力が必要。

科目名	教養演習Ｎ	科目コード	G50039	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	原　圭寛		授業形態	演習	単独	

授業の概要	【アメリカ高等教育史】 　本科目は，戦後日本の高等教育の制度設計に大きな影響を与えたアメリカの高等教育の歴史を辿ることで，現在の日本の高等教育の前提を理解すると同時に，制度移入の際のアメリカ高等教育理解の齟齬や現在でも日本がアメリカの高等教育を参照する際に生じる解釈の問題点などについて講義及びディスカッションを行う。 　これと同時に，履修者は高等教育制度に関する調査を行い，授業時間の一部を用いて発表を行う。調査・発表はグループで行うことを予定しているが，履修者の人数によっては変更の可能性がある。
到達目標	1) アメリカの高等教育史に関する専門的な知識を得る 2) 高等教育に関する問題について，歴史的知見や多様な立場からの意見を踏まえたうえで自身の意見を持ち，これについて 　専門用語を用いながら理論的に述べることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	導入	・本科目のオリエンテーション ・発表のグループおよび日程の決定	初回欠席者は履修を認めないので注意すること
第2回	大学の誕生	・中世ヨーロッパにおける大学の誕生についての講義及びディスカッション	
第3回	アメリカ入植とカレッジ	・中世ヨーロッパの大学のアメリカへの移入についての講義及びディスカッション	
第4回	「イェール報告」と「モリル法」	・アメリカの伝統的なカレッジの性格と農業及び工業教育の展開に関する講義及びディスカッション	
第5回	サイエンティフィック・スクール	・アメリカにおける近代諸科学の展開とそれに応じた高等教育機関に関する講義及びディスカッション	
第6回	中間発表(1)	・学生による調査の中間発表	
第7回	中間発表(2)	・学生による調査の中間発表	
第8回	近代大学の誕生	・ドイツにおける「研究」理念の発展とアメリカへの移入に関する講義及びディスカッション	
第9回	高等教育段階の階層性の崩壊	・専門職養成のundergraduate化とカレッジ教育の意味の変容に関する講義及びディスカッション	
第10回	専門職養成の見直しと 高等教育段階の再階層化	・専門職養成の再postgraduate化とカレッジ教育の意味の変容に関する講義及びディスカッション	
第11回	学生の多様化と大学開放	・大学への非伝統的学生の流入と正規の学生以外へのサービスに関する講義及びディスカッション	
第12回	これまでのまとめと筆記試験	・第11回までの内容の定着度の確認	試験欠席者は評価の対象とならないので注意すること
第13回	最終発表(1)	・学生による調査の最終発表	
第14回	最終発表(2)	・学生による調査の最終発表	
第15回	総括	・講義のまとめ，筆記試験の返却及び解説	

評価方法及び評価基準	1) 原則として，全体時間数の2/3以上の出席が求められる。また，初回及び試験実施日，及び自身の最終発表の日に出席することが求められる。これに反した場合，評価は0点とする。 2) 評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・筆記試験：50% ・発表：50% ・授業内の発言及びコメントシート：適宜加点
教材 教科書 参考書	教科書は特に指定せず，適宜資料をWeb上で配布する。 参考書は授業内で指示する。
留意点	・授業をただ聴いて暗記をするだけでなく，提示される問いに対して「自分ならどう考えるか」ということを常に考えながら授業に臨み，自身の考えを積極的に発言すること。ディスカッションに積極的に参加していない場合，履修を辞退してもらう場合がある。 ・講義は主にPowerPoint等を用いて行うが，スライドはWeb上で配布する。次のアドレスにアップロードするので，受講者は自身で印刷または端末にダウンロードのうえ授業に参加すること。　アドレス：https://researchmap.jp/yoshi0507/授業関連/

科目名	教養演習Ｏ	科目コード	G50040	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	顧　偉良		授業形態	演習	単独	

授業の概要	中国語発音段階を終えた学生に向ける基礎的文法、挨拶や会話を教える。日常会話や中国語の構文法を習う外に、学習者の興味を高めるために、中国の生活・習慣・流行など紹介する。
到達目標	中国語の基礎的文法、会話を身につけること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	自己紹介、你叫什么名字？	動詞「在」と「有」の区別、その使い方について	
第2回	自己紹介、你家有几口人？	動詞「在」と「有」の区別、その使い方について	
第3回	自己紹介、好久没见	形容詞述語文について	
第4回	自己紹介、好久没见	形容詞述語文について	
第5回	何をしていますか。	現在進行形について	
第6回	文型 貴方の内から学校まで遠いですか	介詞「从～到」について	
第7回	文型 車を運転できるか。	可能態について	
第8回	文型 能不能再便宜点儿?	比較の表現について	
第9回	文型 電話の掛け方	電話の掛け方について	
第10回	文型 道を尋ねる	過去の経験について	
第11回	文型　時間の単位	時間名詞について	
第12回	文型　時刻の言い方	時刻名詞について	
第13回	文型　お茶を飲みたいですか。	助動詞の使い方について	
第14回	文型　被・・・・・・了	受け身について	
第15回	まとめ	総合復習	

評価方法及び評価基準	授業への取り組み３０％　テスト７０％ 基本概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。
教科書	『チャイニーズ・ガーデン』、白帝社
留意点	五回以上欠席の場合、単位取得不可。

科目名	教養演習Ｑ	科目コード	G50042	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	前期集中
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	小川　幸裕		授業形態	演習	単独	

授業の概要	本授業は、大学コンソーシアム学都ひろさきの「共通授業」として開講されるもので、弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合う。大きなテーマは次の3つ。 ①対人関係とコミュニケーション、②若者の政治参画、③青森の生活習慣（仮） 授業では、各テーマに沿ったゲストスピーカーが講義を行い、それを通して弘前市の課題を具体的に理解するだけでなく、参加している市内の大学生と一緒にグループディスカッションを行い、地域の発展のために学生自身ができることについて考える。
到達目標	①　地域の状況を具体的に理解できるようになること ②　地域の課題解決のために、学生ができることは何かを考えることができるようになること ③　各テーマに対して、自分の考えを述べることができるようになること

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	対人関係とコミュニケーション①	対人関係におけるコミュニケーションとは	
第2回	対人関係とコミュニケーション②	地域でコミュニケーションに課題を抱えている人とは	
第3回	対人関係とコミュニケーション③	対人関係を形成する基本姿勢	
第4回	対人関係とコミュニケーション④	コミュニケーションの方法①（伝え方の演習）	
第5回	対人関係とコミュニケーション⑤	コミュニケーションの方法②（傾聴の演習）	
第6回	若者の政治参画①	2016年夏の選挙を振り返って（予定）	
第7回	若者の政治参画②	若者の政治参画とその影響力	
第8回	若者の政治参画③	投票先を選択してみよう	
第9回	若者の政治参画④	投票を行ってみよう	
第10回	若者の政治参画⑤	自分たちの「まち」	
第11回	青森の生活習慣①	生活習慣病対策ゲームの実施①	
第12回	青森の生活習慣②	生活習慣病対策ゲームの実施②	
第13回	青森の生活習慣③	生活習慣病の地域課題	
第14回	青森の生活習慣④	コミュニケーションのあり方～「他者になる」ことの意味	
第15回	青森の生活習慣⑤	生活習慣(病)にかかわる企画の立案	

評価方法及び評価基準	平常評価（授業への参加度）：20% 中間発表（グループディスカッションの発表内容）：30% 期末評価（最終レポート）：50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料などを配布する。
留意点	普段から「広報ひろさき」などにも目を通し、地域においてどのようなことが行われているのか、関心を持つようにすること。